

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事		2020 (R2) 年 7 月 22 日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 〒624-0906 京都府舞鶴市宇倉谷660		氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 日之出化学工業株式会社 代表取締役社長 秋元 久雄
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	K E S ス テ ッ プ 2	
適 用 範 囲	日之出化学工業株式会社 本社・舞鶴工場	
導 入 年 月 日	2 0 1 2 (H 2 4) 年 8 月 1 日	
認 証 番 号	K E S 2 - 0 6 2 2	
基 本 方 針	日之出化学工業株式会社本社・舞鶴工場は、磷酸質肥料の製造およびフッ化マグネシウムの製造・販売に係わる全ての活動、製品およびサービスの環境影響を改善するために、環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	(1) エネルギー原単位の向上 (2) 総合排水中の有害物の低減 (3) 産業廃棄物の削減 (4) 品質クレームの低減 (5) 改善提案の積極参加	
目標を達成するための取組の内容	(1) エネルギー原単位の向上 -①平炉原料配合の工夫による熔融性の改善 -②平炉OC燃焼換業の安定継続（重油使用低減） -③加工部門における省エネ取り組み (2) 総合排水中の有害物の低減 -①フッ素イオンでの監視方法の確立 -②排ガス洗浄工程の管理強化 -③中和処理工程の管理強化 -④異常発生時の原因究明 (3) 産業廃棄物の削減 -①廃プラスチックの有価物化 -②油漏れ解消による廃油の削減 -③分別強化による有価物の回収 (4) 品質クレームの低減 -①根本的対策となる設備改善の計画 -②シートパレットの材質変更 -③保証成分の確保 (5) 改善提案活動の活性化 コストダウン、工程改善、安全対策、工場美化、環境負荷低減	
目標を達成するための取組の進捗状況	(1) -①可能な範囲で実施。融点降下→品質悪化となる問題有。 (1) -②品質確保の為、重油燃焼に頼る場面が多々あった。 (1) -③加工部門のワンプラス取率改善（平均 71.8%→76.8%）。 (2) -①管理基準に基づき監視継続。 (2) -②排ガス洗浄ノズル閉塞に対し、迅速に対応した。 (2) -③管理基準に基づき監視継続。 (2) -④排水異常の実績なし。 (3) -①継続的に実施。 (3) -②機器油漏れ修繕実施。 (3) -③継続的に実施。 (4) -①袋詰機の更新を計画。 (4) -②経過観察継続中。特に問題なし。 (4) -③仕込み原料成分管理強化を継続的に実施。 (5) 会議等において、参加人数増を呼びかけ。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	(1) 目標2018年度比2%向上に対し、実績1.8%改善で目標未達。原因として、2017年度に引き続き、平炉主原料（リン鉱石）の品位低下による生産性悪化が大きい。 (2) 排水異常の発生は無いものの、引き続き管理強化を要する。 (3) 目標2018年度以下に対し、実績0.8%増加で目標未達。要因として、使用期限切れのマジックコンテナを多量に処分。 (4) クレームの発生は無かったが、出荷前段階での不良品発見報告有り。 (5) 目標13件以上/月に対し、年間平均13件/月で目標達成。提案件数は前年度比減となった。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	・公害関係の環境測定結果を3ヶ月ごとに舞鶴市へ報告。 ・2019年12月26日、スラリー状の工程回収物と石灰系材料を混合する作業時に、粉塵が工場周辺に飛散する事故が発生し、舞鶴市と京都府に報告。処置状況、再発防止策について京都府に報告した。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	(1) エネルギー原単位の向上については、基準年度を2018年度から2019年度に変更し、基準年度比2%向上を目標に設定。 (2) 総合排水中の有害物の低減については、排水Fイオン濃度の目標ピーク値を5.3ppm以下から5.2ppm以下に変更し、さらなる管理強化に努める。 (3) 産業廃棄物の削減については、目標未達の為、2017年度実績以下を目標に再チャレンジ。 (4) 品質クレームの低減については、目標を1件以下/年とした上で、引き続きクレーム撲滅を目指す。 (5) 改善提案活動の活性化については、目標件数を13件以上/月から14件以上/月に変更。 以上、主要5項目について取り組む。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。